

高松産ごじまん品

本市の就業構造をみると、農業は全体の2.4%（漁業は0.2%）で、第2次産業19.6%や圧倒的多数を占める第3次産業74.0%と比べるとごく小さな規模にしか過ぎません（平成27年国勢調査）。しかしながら、瀬戸内式の温暖な気候を利用して稲作を中心に、麦、野菜、果樹、畜産などを組み合わせた都市近郊型の複合経営や施設園芸等の集約型農業も展開されており、経営規模の零細性を補う生産性の高い農業が行われています。

その生産性の高さや品質の良さを持つ高松の農業と特産農産物を対外的にアピールすべく取り組んでいるのが「高松産ごじまん品」の推進運動です。高松市内で生産される代表的な野菜や果物、特産品を「ごじまん品」に登録して宣伝するとともに、安全性と安心感を確保するため、農薬の適正使用を行うことなどの条件を付けて生産指導が行われています。具体的な品目は、野菜がブロッコリーやナバナ、ミニトマトなど15品目、果物がミカン、イチゴ、ブドウなど9品目。穀物が黒大豆と米の2品目、特産品が盆栽、牛肉など4品目で計30品目が選定されています。

「高松産ごじまん品」は、ふるさと納税の返礼品においても活躍しています。特に直近の令和元年度には、「高松産ごじまん品」の果物や野菜の返礼品の種類を充実させたこともあり、結果、寄附金額は前年度比で約1.8倍となりました。ちなみに、令和元年度の寄附件数の上位三品は、シャインマスカット（ブドウ）、せとか（中晩柑）、さぬきのめざめ（アスパラガス）となっています。

このように近年、全国的な売れっ子スターも出てきている「高松産ごじまん品」ですが、肝心の地元の人がよく知らない、という悩みも抱えています。また、人気品種は値段も高くて地元にあまり出回っていない、という声も聞こえてきます。我々の宣伝もまだまだ足りていないところもあるでしょう。

市民の皆様、ぜひこの機会に、「高松産ごじまん品」をご認識いただき、ご愛顧いただきますようお願い申し上げます。

